

# 会 議 録

1 会 議 名	令和4年度第1回太宰府市都市計画審議会
2 開催日時	令和5年1月24日（火）14:00～16:00
3 開催場所	太宰府市役所 4階大会議室
4 出席者名	青山委員、近藤委員、坂井委員（職務代理者）、高尾委員（会長）、笠利委員、木村委員、高橋委員、轟委員、柴田委員、松尾委員、宮原委員
5 議 題	<p><b>【議事】</b></p> <p>立地適正化計画について</p> <p>（0）太宰府市都市計画審議会について</p> <p>（1）立地適正化計画制度について</p> <p>（2）立地適正化計画の作成に向けた本市の検討状況</p> <p>（3）関連する計画や他部局の関係施策等の整理</p> <p>（4）本市が抱える課題の分析及び解決すべき課題の抽出</p> <p>（5）まちづくりの方針（ターゲット）検討</p> <p>（6）目指すべき本市の骨格構造の検討</p> <p>（7）課題解決のための施策・誘導方針（ストーリー）の検討</p> <p>（8）誘導施設・誘導区域等の検討について</p> <p>（9）今後のスケジュールについて</p>
6 内 容	
事務局	（開会挨拶）
	（市長より委嘱状交付）
楠田市長	<p>本市は今年度市制40周年を迎えており、令和の都としてさらに羽ばたいていくための節目としての取り組みを進めている。一方でコロナ禍もまだ続いているが、令和のご縁をいただくなどもありながら、議論を深めてきたが一度論点整理のために中断した経緯がある。</p> <p>改めてコロナ後も見据え、令和のご縁も大切にしながら、太宰府市としてのこれまでの取り組み、これからの新たな観点を含めて考えていきたい。一方で財政的な課題がある中でもふるさと納税が10億円を突破したこと等により歳入は伸びているが、人口増や企業誘致等による歳入増は道半ばとなる。</p>

	<p>そうしたことを見据えながらのまちづくり、災害が多発する中で安心安全に暮らしていけるかという観点など、改めて委員皆様方の闊達なご意見を賜りながら進めていくためにもご理解ご協力をお願いしたい。</p>
全員	(各自自己紹介)
事務局	<p>(会長及び職務代理者選出)</p> <p>太宰府市都市計画審議会条例第 7 条第 1 項の規定に基づき、識見を有する者として任命された委員の中から、委員の選挙により会長を定める。立候補及び推薦はあるか。</p>
全員	委員から立候補及び推薦なし。
事務局	事務局から提案したいがよろしいか。
全員	異議なし。
事務局	<p>高尾委員に会長をお願いしたい。</p> <p>高尾委員、よろしいか。</p>
高尾委員	了承。
事務局	続きまして、太宰府市都市計画審議会条例第 7 条第 3 項の規定に基づき、会長の職務代理者を高尾会長からご指名いただきたい。
高尾会長	坂井委員に職務代理者をお願いしたい。
事務局	<p>高尾会長より坂井委員を職務代理者となご指名があった。</p> <p>坂井委員、よろしいか。</p>
坂井委員	了承。
高尾会長	<p>(会長席へ移動、挨拶)</p> <p>太宰府市のこれからにとって都市計画は非常に重要なテーマとなり、重責と感じている。委員皆様方のお力を借りながら務めていきたい。</p>
坂井職務代理	<p>(副会長席へ移動、挨拶)</p> <p>職務代理として、太宰府市がさらによい都市となるよう、会長を補佐しながら務めていきたい。</p>
事務局	これより議事に入る。太宰府市都市計画審議会条例第 8 条の規定により議事の進行

	を高尾会長に願います。
高尾会長	今日の審議案件は 1 件。太宰府市が立地適正化計画を今後策定していくにあたっての仕切り直しの第 1 回目となる。委員皆様方で議論し、方向性が定まればと考えている。事務局からの説明を願います。
事務局	(資料説明)
高尾会長	この立地適正化計画に関しては、令和 5 年度から令和 6 年度にかけて策定ということの説明を受けた。1 年ほどの時間をかけて審議会を開催し、委員皆様方のご意見を踏まえて議論を重ねていくことになる。 ここまでの説明に対し、質問等はあるか。
坂井職務代理	4 つある駅の近くに誘導していくコンパクト・プラス・ネットワークを実現するために、交通とセットでどのように進めていくか。太宰府市はイベントがある際に発生する交通渋滞が長年課題となっている。総合交通計画協議会で交通渋滞に関して検討しているとのことで、その検討結果も情報を共有しながら考えていく必要がある。観光との関係も密接となるため、観光に関するデータの収集も柱になってくる。 福岡県でこれからの都市計画の大きな方針について、3 年間かけての議論が始まっているため、その方針も勘案しながら進めてほしい。ハザード関係は命を守るようになるため外すことはできない。 また、一次産業を守っていく必要もある。農林業等との関係も整理することでエネルギー関係のことまで考え、どのように一次産業を守ってあまり拵がらずに開発をしていくか考えていく必要がある。 先々は用途地域の見直しも必要になると感じた。
高尾会長	広域連携都市とするならば、太宰府市だけで解決することでもない。福岡県では、都市計画に関する今後の方向性について議論が始まったとのことだが、何かアドバイスがあれば願いたい。
委員	福岡県の都市計画の基本方針を 3 年かけて見直していく予定、併せて区域マスタープランの変更等も行っていく予定。太宰府市のスケジュールは令和 5 年度から令和 6 年度にかけて立地適正化計画を策定するため、福岡県と太宰府市で情報交換し、整合を図りながら進めていければと考えている。 二日市周辺が筑紫野市であったり、他の市との連携が非常に重要となってくるため、どのように調整しながら立地適正化計画に記載したらいいのかなど、福岡県としても一緒に考えていきたい。
委員	資料 63 ページの「歩いて暮らせる広域連携都市」の「広域連携」は、どのようなことで、どの地域までを指しているのか。筑紫地区は連携が必要と感じている。資料

	<p>64. 65 ページのまちづくりの方針、ターゲットにも記載があるが「本市と他自治体とを 行き来する人が多く、また隣接市と続いた市街地が形成されており、隣接市の都市機能 を利用する市民も多くなっています」とあり、そのとおりである。公共交通の利便性 についても筑紫野市や大野城市にある駅が使われている。</p> <p>太宰府市の拠点づくりについても拠点よりも軸が重要となる。説明にも軸が重要と あったが、太宰府市内だけで軸が完結しない。交通については東西が弱く、賑わいの軸 は市を跨いでいるため、どのように解決するのか。ただの連携では進まず、筑紫野市や 大野城市で踏み込んだ検討がされていないのではないかと。</p> <p>他市との連携についての方向性や見込み、これからの取り組みについてどのように 考えているのか。</p>
事務局	<p>広域連携については、ご意見のように太宰府市内にお住みであっても下大利周辺に 行かれたり、高雄周辺にお住まいの方が二日市周辺に行かれたりされている。拠点にど のような機能を誘導するのかと交通は、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方か ら一体的と考えている。今後、事務局で案を考えてお示し、本審議会や交通に関しては 地域公共交通活性化協議会からご意見をいただきながら検討を進めていきたい。</p>
高尾会長	<p>隣接している自治体との今後の協議や連携をどのように進めていくのか。</p>
事務局	<p>実際に大野城市や筑紫野市との連携の形は描けておらず、本件に関して協議は実施 したことはない。例えば、都市計画道路の関係で今後の検討について協議を実施したこ とがあるため、同様に協議をすることになると考えている。</p> <p>ただし、大野城市と筑紫野市は立地適正化計画を策定していないため、その点も踏ま えて相談や協議が実施できればと考えている。</p>
委員	<p>もっと具体的な提案となるが、約 30 年前に春日市と大野城市が都市計画マスター プランの擦り合わせをしている。それは両市だけではなく、福岡県と当時の建設省も入り 交通と賑わいをテーマに予備調査をした。今の筑紫野市と太宰府市が置かれている状 況と同様。縦の交通は強いが東西線が弱いため、そこでテーマになったのが鉄道。JR を 立体交差し、最終的には西鉄は連続立体交差にするといったように鉄道沿線沿いの賑 わいの軸を作っていく計画を作った。</p> <p>1 つの市だけで都市計画マスタープランを作って擦り合わせるのではなく、そもそも 関係する両市で、当然春日市と大野城市は行政界がわからないくらい密接な環境があ り、最終的にその結果が西鉄の連続立体交差が 30 年かけて完成したというところに結 びついている。太宰府市も筑紫野市も道路もそうだが鉄道の連続立体交差自体に今の ところ全く計画がないような状態。</p> <p>まずは、マスタープランを一緒に擦り合わせて作らないと、それぞれに会議体を設け て進めていても結局いつまでたっても調整ができないという形になっている。いいサ ンプル、本があるので参考にされたらいかがか。</p>

高尾会長	<p>まさに意見のとおりと考える。連続立体交差事業は大野城市の積極性があったと認識している。国の制度上、各自治体で作成することになっているが、大野城市、筑紫野市、太宰府市の3市で1つの立地適正化計画を作ってもいい。課題観をきちんと共有することが非常に重要。太宰府市が先行して検討を進めているが、筑紫野市と大野城市とどのような課題に対して、今後どのように解決していくかをきちんと共有していくプロセスを県にも協力・支援を得ながら3市で一席設けて、意見交換して共有して一緒に取り組んでいく場作りが有効と考えられる。そうしないと計画を策定しても絵に描いた餅になっていくリスクが非常に高く、委員の意見のとおりと感じた。筑紫野市の関係者も本審議会に含まれておりますので、勉強会なども検討しては。</p>
坂井職務代理	<p>私自身、筑紫野市都市計画審議会会長も務めており、筑紫野市都市計画課長も本審議会の委員であることから今後相談を。</p>
高尾会長	<p>是非、連携して進めていただきたい。 ほかにご意見等ないか。</p>
委員	<p>以前の資料より分析も進んでおり、わかりやすくなった印象はあるが、気になったのは、太宰府市は全国的にも圧倒的なネームバリューがある観光地を抱えていながら、観光の部分がスルーされている感じがする。太宰府市の強みは利便性の高さだけではないはず。今の分析で進めていくと観光地が生活するうえでの迷惑施設のような形に見えてしまう。観光地があるからこそ住みたい方もいらっしゃるはず。生活があるからこそ観光地としての魅力が出てくると思う。</p> <p>私が移住したのも便利だからではなく、許容できる範囲の不便を超える魅力があるから。人口も予想よりも上方修正するのであれば、移住者がたくさん来る魅力がある場所を目指していくのではないか。もう少し観光客の分析に対しては、コロナによって激減した説明があったが、コロナ前に戻った方がいいのか、人が混雑しているところが本当に魅力的なのか含めて、中心市街地以上の分析の必要があると感じた。</p>
事務局	<p>分析の中に観光客の入り込み数を記載していたように、本市に訪れる方が多くいらっしゃる。訪れる方と住んでいる方がどういった形で共存していくかなど、交通にも関係するため、今後どういった形が望ましいのか計画作成にあたってご意見賜りたい。</p>
高尾会長	<p>湯布院のまちづくりに長年携わってきたが、いつも同様の議論になる。</p> <p>以前は、観光客が多く来られることで生活が大変という意見が多かった。最近、グリーンスローモビリティを走らせたりしたことで、公共交通やモビリティ、まちづくりや都市機能の議論をすると、住民だけでは事業性が成立しないが、観光客が訪れてくれるおかげで成立するポテンシャルに議論が動いた。</p> <p>例えば、太宰府駅、五条駅、都府楼前駅に何か民間の施設、カフェやレストランなど生活を豊かにしてくれるような施設があったらいいとなったとき、住民だけではビジネスは成立しないが、観光客の存在というのは、事業性を上げるために非常に重要な存</p>

	<p>在で一概に迷惑とは限らず、このまちの暮らしを豊かにするために関わってくれる人間がたくさんいるということ。太宰府市に何回も来られて、ファンの方もいて市外から応援してくれる方が多くいるということ。そういう意味でまちを豊かにしていくステークホルダーとして位置付けていく方が良い。</p> <p>特に今回は拠点を決めて、都市計画である程度集約していこうというビジョンを描こうとしているため、観光客の動きと拠点の位置は密接に関係しているため、そのあたりきちんと整理しておくべき。</p> <p>委員 令和4年度の都市計画基礎調査実施中とのことだが、調査結果はいつごろ出るのか。また、2年ほど中断した形だが、事務局側でその間の最も大きな変化として今後考えていかないといけないと感じていることはなにか。</p> <p>地域公共交通との関係はできればもう少し情報がほしいが、資料 39.40 ページをみて気になったのは、バスは全然来なくなった割には観光客が戻っているのに驚いている。困っている人が多かった観光バスはいらなかったのではと。</p> <p>「歩いて暮らせる広域連携」ということで「広域連携」というと先ほども意見であった他の市との協力とか、システムティックな見方が必要になってくるかと思うが、最初に説明があったように立地適正化計画の大きな目標は「歩いて暮らせる」ということをどうしていくかが大事だと考えている。「歩いて暮らせる」というところを観光客との関係はこれまで議論してきたと思うが、この計画を策定し5年ごとの見直しがあるとしても暮らしていけるというところをきっちりと都市構造の中に埋め込んでいくことが大事だと感じた。</p> <p>事務局 都市計画基礎調査については、調査期間については今年度末までに福岡県に調査結果を提出することとなっている。本市が把握している都市計画の情報は年度末までに判明する。</p> <p>令和2年度及び3年度に立地適正化計画の検討を一時先延べした間の事務局側としての大きな変化は、法的な部分でいうと防災指針の検討が追加された点となる。令和元年度までの検討段階では、防災指針の検討については法的に位置付けられていなかった。今後の検討にあたって、大きくウエイトを占めるのは防災指針の検討となる。それに関連して、今までは拠点の設定についてご議論いただいていたが、コンパクトシティとネットワークを考えたときに拠点の設定するのであれば、居住地域とネットワークが繋がっていないといけないという考えを事務局も持っている。拠点を設定するだけでなく、きちんと居住地域とバスや鉄道のネットワークで繋ぐことによって、今住んでいるところで長く暮らせることが維持できるとも考えている。</p> <p>今後の方向性は定まっていないが、コンパクトシティと考えることと、交通のネットワークを考えることは同時に進めていき、より連携していかなければ先々、拠点と交通が繋がっていないや、ネットワークはあるのに誘導したい都市機能がないなどにならないように、委員からのご意見を参考に進めていきたい。</p> <p>委員 会長、副会長や委員からの意見と重複するが、生活していくうえで交通や拠点も重要</p>
--	--

	<p>だが、観光に関しても太宰府市単独には限界があり、他市との連携が必要になってくる。観光に関する連携については、既に議論しているかと思うが、太宰府市へ観光に来て通過点になっている。宿泊という部分については、受け皿が十分に足りていない。そうしたときに実際ふるさと納税についても、一番近い温泉地が筑紫野市となっているが、その商品が太宰府市で出せないといった矛盾が起きている。大野城市や筑紫野市と連携するには場を設けていく必要がある。これがないと進んでいかない。筑紫野市ではそういう話しはできてきているか。</p>
委員	現時点では、そういった話しは出てきていない。
委員	筑紫野市の新市長も観光にも注力していくとのこと。期待しているところであるし、太宰府市都市計画審議会の意見も伝えていただければ。
委員	貴重なご意見として賜った。
委員	<p>資料 35 ページは市内の鉄道の乗車人数が書いてある図面だが、JR で見ると大野城駅が 6,935 人、市境の水城駅 1,724 人、太宰府市の都府楼南駅 1,035 人。都府楼南駅は 3 月末から無人駅となる。二日市駅 5,910 人、多そうに見えるがここはポテンシャルがあると考えている。先ほどから観光の話しが出ているが、この駅は観光の拠点となる。立地適正化計画では主に西鉄の駅を拠点として位置付けているかと思うが、都府楼南駅周辺は筑紫野市と隣接しており、そこは市街化調整区域となっている。水城駅と都府楼南駅の間（仮称）太宰府駅の計画がある。このような状況では、JR は協力してくれない。（仮称）太宰府駅を作ることを推進している立場ではないが、ここの市街化調整区域は平坦地であり、立地適正化計画の中心地、拠点として外すことは残念。これがいっただけでも結論が出ない。まずこのまちづくりの方向性を持っておかないと、今考えている立地適正化計画の拠点だけでは、現状維持、もしくは縮小、人口減少が進んでいくのではないかと懸念している。</p> <p>この立地適正化計画に間に合わないかもしれないが、まちづくりしやすい平坦地を中長期的な考えを持っておきながら最終的には太宰府市の中心部は、このまちづくりしやすい平坦部分を含めたところも考えていくべきであり、まずは結論づける必要があると思うが、その辺の見込みについての考えは。</p>
事務局	<p>資料 35 ページ、西鉄は乗降客数、JR は乗車人数となるため、乗降となれば 2 倍近くになると考えている。ご意見のとおり、都府楼南駅については 3 月下旬に無人駅に変更がされるということで 19 日に JR から発表がされた。西側エリアのまちづくりについては、立地適正化計画における都市機能誘導区域は現時点では市街化区域への設定となるため、佐野東エリアについては市街化調整区域となり、立地適正化計画の都市機能誘導区域に設定することが現時点ではできないこととなる。</p> <p>立地適正化計画は都市計画マスタープランの高度化版となり、都市計画マスタープランでは佐野東、西のエリアに何らかの拠点を形成したいという方向性は示している</p>

	<p>が、議会等でもご説明していたが、こちら民間施行を主体とした区画整理事業と方向性を固めていることから、一旦は動向を見ている状況、現段階ではいつまでに方向性がでるとまで決められていない状況となる。</p>
<p>委員</p>	<p>目標の「歩いても暮らせる広域連携都市」の点だが、「歩いても暮らせる」という部分にこだわってみて、バス停から 300m の範囲で太宰府市は公共交通に恵まれているとまとめているが、資料 30 ページのようにコミュニティバスとそれをサポートしている地域サポートカーが末端で交通を支えていることになるが、不便という声もある。</p> <p>宇美町ではのり一とが導入されており、バス停から 150m の範囲としているため本市よりもっと身近な場所にバス停が来る状況となる。なおかつ、デマンド型であるため更に便利になっている。立地適正化計画の中で公共交通機関の改善に一步踏み込んでいかないと他市と比較しても見劣りする。その辺の改善の傾向としては何か方向性はあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>公共交通の関係で特にバス路線は、コンパクト・プラス・ネットワークのネットワーク部分は非常に大切な部分になるため、その部分については、地域公共交通活性化協議会にてご議論いただき、意見交換している。その情報を本審議会にも掲示しながら情報連携を想定している。</p> <p>バス停から 300m の範囲については、丘陵地の住宅であったりするとご負担に思われる方も多しことは認識している。そういった地域の地形、住宅地の道路の状況なども含めて地域公共交通活性化協議会にてご議論いただければと考えている。</p>
<p>高尾会長</p>	<p>いろんな技術が発展してモビリティがこれから進化していくため、今の時点で 10 年後 20 年後のモビリティの状況を予測するのは難しい。ヒトの移動とモノの移動を分けて考えておく必要がある。現在は、ヒトの移動とモノの移動を道路が担っているが、将来的にすべて道路が担うことにならない可能性もある。モノの移動だけでいえば、太宰府市だけでなく、どこの自治体も広域連携できており、その辺を混同している印象がある。つまり、郊外に住まわれている方が生活していくために、その方自体が移動しないといけないパターンと、その方へモノが届かないといけないパターンがあり、モビリティは別々で問題ない。逆にコミュニティバスにヒトしか乗らないといけないこともなく、モノと一緒に乗ってもいい。そのあたりを分けて分析しておかないとこの問題は難しい。</p> <p>十分議論して「歩いても暮らせる広域連携都市」という目標になり、ある一定の事務局のこだわりもあってこういう形になっているようだ。「広域連携」することによって「歩いても暮らせるまち」になっていこうとしていると思うが「広域連携都市」になりたいのか。「広域連携による、歩いても暮らせるまち」ならわかるが、「歩いても暮らせる広域連携都市」だと 1 番のビジョンは「広域連携都市」ではないか。</p> <p>「広域連携」だけではなく、先ほどのバス停から 150m 圏や 300m 圏、700m 圏といったように重層的にネットワークを形成して「歩いても暮らせるまち」をつくらうとしていると考えられるため「広域」だけを高らかに謳うよりかは、重層的なネットワークに</p>



	<p>よって「歩いて暮らせるまち」をつくろうとしているということがきちんと伝わるように表現を考えてもいいのではないかと今日の議論で感じた。</p> <p>身近な生活環境のことを委員皆が重要視していることもあり、このままだと見方によっては「福岡に通うまち」や「公共交通を使って福岡に通いましょう」というように見える。身近な環境、広域的な環境を両方とも大事にしながらネットワークを作っていくのが伝わるような理念の言葉を検討してはいかがか。</p>
委員	<p>資料 38 ページ簡単に産業構造の分析がされているが、これまでどのような変化があったのかと今後どのような変化がありそうかを踏まえておく必要があるのではないか。</p>
高尾会長	<p>ヒトの流れ、モノの流れを考えるとときに産業のトレンドが重要となってくる。傾向を把握しておく必要があると考える。</p>
坂井職務代理	<p>目標のところだが、この都市が何を指すか総合計画に記載されている。総合計画を実現するための場作りがこの審議会になる。総合計画に立ち返って必要なのがウォークアブルなのかもしれないが、次回の審議会でも議論が必要と感じた。</p>
委員	<p>資料 76 ページに課題解決のための施策・誘導方針の検討の部分で、4 つ都市づくりの方針が掲載されているが、それぞれの具体的なイメージ、どういったことをしたいのかという考えを持っておき、深めていくことでそのための施策が出てくる、そういった検討を進めていただきたい。</p> <p>観光に関しては、太宰府市の 1 つの強み。今回の立地適正化計画の中で観光に関する記載がないとその強みを自ら捨てているように感じる。観光客にも歩いて回ってもらいたいという市の方針があると考えられるため、そういったためにどういった施策が必要なのかも併せて検討いただきたい。</p> <p>隣の市との連携については、少なくとも大野城市や筑紫野市に連携したいという太宰府市の意思表示や、立地適正化計画に関する説明をして意見を聞くことは必要。連携に際し、県が間に入った方がよければ協力したい。</p>
高尾会長	<p>ほかにご意見等はないか。</p>
全員	<p>質問等なし。</p>
高尾会長	<p>なければ、進行を事務局へお返しする。</p>
事務局	<p>(閉会挨拶)</p>